

# ◆全日本マスターズ陸上競技選手権大会◆

日時:平成 28 年 9 月 17~19 日 於:新潟ビックスワン陸上競技場

## 【競技結果】

### M70(70~74 歳)

60m 椎木茂久(新 17) 9"56(+2.7) 6位入賞  
100m 同上 15"78(-0.1) 18 位  
200m 同上 33"60(+0.1) 15 位

### M60(60~64 歳)

800m 矢野 猛(新 27) 2' 28"23 優勝(5年ぶり)  
1500m 同上 5' 09"38 3位入賞  
走高跳 田代雅彦(新 27) 1m50 優勝(4年ぶり)

今年は常連の 40 歳代の短距離・跳躍陣が故障のため欠場。椎木会長、新 27 の田代と矢野の 3 名の参加でしたが、椎木会長が久々の入賞、田代は走高跳で 4 年ぶり、矢野は 800m で 5 年ぶりに日本一になりました。

それでは優勝種目の戦況と入賞選手のコメントをどうぞ！

## 【M60 800m】

優勝候補の筆頭は昨年の世界大会のファイナリスト(準決勝で 2 分 22 秒)佐藤隆一選手(東京 62)。そして今年のランキングでは 2 分 27 秒で 1 位の矢野猛選手(兵庫 60)。5 年前に矢野選手が優勝した時に 3 位に入った田中和人選手(鳥取 61)に加え、本大会の 3000m の覇者、阪本良雄選手(福岡 60)が 3 種目制覇を狙って 800m にも参戦。

200m 地点では、早くも佐藤選手が 2~3 秒リードして独走状態。第 2 集団は田中選手、阪本選手、矢野選手の順で 400m を通過。佐藤選手は今年は記録を出していなかったが、本番に合わせてきたか・・・と思われたが、600m 通過後、失速。ラスト 100m 地点から 4 人のスパート合戦となった。

1 位 2' 28" 23 矢野、 2 位 2' 28" 71 阪本、 3 位 2' 29" 42 田中、 4 位 2' 29" 89 佐藤



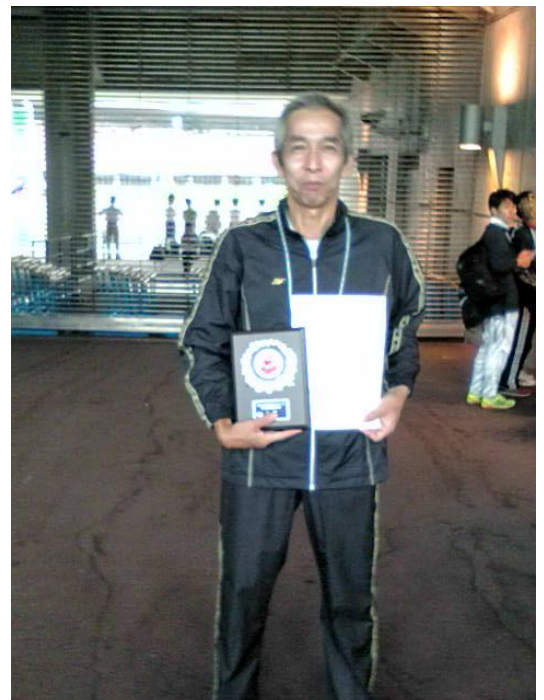
サブで実施された 1500m2 周目を 2 位で通過する矢野選手

## <新 27 矢野猛 (800m : 優勝、1500m : 3 位) コメント>

例年、春先は出遅れていましたが、今年は早めにスピード練習に切り替えたので、春先から 1500m は練習で 5 分 00 秒、800m は 6 月に 2 分 27 秒と好調なスタートが切れていたのですが、7 月の舞洲リレーマラソンの後、脚に張りが残っているにもかかわらずスピード練習を強行し、左ハムの肉離れを発症してしまいました。

全日本まで 2 か月しかないことから、練習しながら治療することにしましたが、治りかけては無理をして再発を繰り返してしまい、2 週間前によく辿り着いた復帰レースは 400m を 78 秒で通過し、ペースアップしようとしたところで痛みが出て走行中止。この時は、さすがにへこんでしまいましたが、その後、急速に症状が回復に向かい、1 週間前の練習では 600m をレースペースの 1 分 51 秒で走れるまで戻りました。

ぶっつけ本番で迎えた 800m は幸運にも理想的なレース展開となりラスト 100m のスパート合戦に持ち込めました。なんとか脚がゴールまでもってくれたので、5 年ぶりに日本一を奪還することができました。



800m 優勝楯と矢野選手  
幸せな気分でホコホコ

## 【M60走高跳】

氏名(所属 年齢)	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	結果
田代雅彦(兵庫 60)	P	○	○	○	×○	1位 1m50
宮本吉豊(長野 61)	P	P	○	○	×××	2位 1m45
青山正之(愛知 60)	○	××○	×○	××○	×××	3位 1m45
黒木昭生(大阪 62)	P	P	○	×××		4位 1m40
木村 勝(群馬 60)	○	×○	××○	×××		5位 1m40

上位の5人は上表のとおり、4年前には田代選手と宮本選手が1m50の同記録ながら1回目で跳んだ田代選手が優勝している。今年は黒木選手を含めた3人が優勝候補。1m35から跳び始めた田代選手に対し、宮本選手と黒木選手はこの高さをパスして1m40から跳び始め、難なく1回でクリア。1m45で優勝候補の一人黒木選手が脱落する波乱。青山選手が3回目にクリアして表彰台の3名が決定。

田代選手にとって1m50は、ここ3年間跳んでいない高さだが、宮本選手は昨年跳んでいる。1回目は3人共失敗。田代選手は勝負強さを発揮して(関西ICでも発揮してほしかったが・・・)2回目にクリア! 試技数で優位にいた宮本選手にプレッシャーをかける。次の高さ1m55は厳しいので、宮本選手が2回目にクリアするかどうかで勝敗が決する・・・宮本選手は2回目失敗。結局1m50がクリアできたのは田代選手ただ一人ということで、4年ぶりの優勝を決めた。

### <新27 田代雅彦(走高跳び:優勝)コメント>

走り高跳びは2日目に行われましたので、前日の800mで矢野君が力走(失速せずに競り勝った)して優勝したのを見て、大変刺激を受けていました。今年から練習方法を変えていたので、記録は狙っていましたが優勝できたのは幸運でした。



表彰式は2位の宮本選手が奥さんを探しに行っている時に始まってしまい2人での表彰台でした。

## 【M70】

### <新17 椎木茂久(60m:6位)コメント>

右膝の故障もやっと回復基調になり、練習も少しできるようになりました。そこで張り切って新潟入りしましたが、初日の200mで空回りしてしまい、次の100mも不本意でした。ただ、最終60mで6位入賞となり何とか形ができました。大阪府では、M70のリレーが組めなかったのが残念でした。

すばらしい競技場でしたが、昭和38年のIHの時とは競技場が異なっていて、少し残念でした。

